

学科名	ボディークラフト科				
科目名	電子制御装置				
履修年次	1年次	履修学期	通年	授業形態	実習
教育時間数	3時間	単位時間	(電子制御装置・板金・塗装・自動車検査)19単位		
担当教員	伊 澤 猛 船 木 康 博 萬 智 樹				
実務経験	全員が自動車関連会社にて勤務し、メカニックの経験がある。				
目的	作業を通じて先進安全技術を学び、エーミング作業を習得し、自動車整備士として社会で活用する術を身に着けることを目的とする。				
到達目標	エーミング作業により、電子制御装置が正しく作動するための校正やセンサなどの調整作業が出来る。				
目標資格	自動車車体整備士				
授業計画	授業内容				時間数
	・エーミング作業				2
	前期期末試験				1
					3
使用教科書	自動車整備技術 車体整備 電子制御装置整備				
成績評価の方法	前期期末試験 A : 100~80 B:79~60 C:59~50 (合格) D:49以下 (不合格)				

学科名	ボディークラフト科				
科目名	板金				
履修年次	1年次	履修学期	通年	授業形態	実習
教育時間数	430時間	単位時間	(電子制御装置・板金・塗装・自動車検査)19単位		
担当教員	伊 澤 猛 船 木 康 博 萬 智 樹				
実務経験	全員が自動車関連会社にて勤務し、メカニックの経験がある。				
目的	板金作業は、車体のパネル部品の損傷を修正する作業である。車体整備の中ではひん度が高く、最も基礎的な作業である。板金作業に当たっては、構造、素材を熟知していること、損傷状態を的確に把握すること、板金用器具と使用方法を理解していることが重要であるため、これらを学ぶことを目指す。				
到達目標	鋼板の損傷、板金作業、電気抵抗スポット溶接、ガス・シールド・アーク、ガス溶接、電気アーク溶接、電気式溶接機を使用する時の注意事項、電気アーク溶接の安全衛生、部材の接合方法、部分交換の方法、フレームの狂いの修正、フレームの亀裂の修理、フレーム補強版、フレームのリベット作業を説明し理解できる。				
目標資格	自動車車体整備士				
授業計画	授業内容				時間数
	カット作業				35
	溶接作業				32
	フレーム修正				24
	板金の応用作業				24
	各部取り外し作業				54
	車体の計測、フレーム修正				24
	溶接・亀裂修正				20
	板金作業				20
	実車による板金塗装作業				162
	前期期末試験				23
後期期末試験				12	
				430	
使用教科書	自動車整備技術 車体整備				
成績評価の方法	前期期末試験・後期期末試験 A:100~80 B:79~60 C:59~50 (合格) D:49以下 (不合格)				

学科名	ボディークラフト科				
科目名	塗装				
履修年次	1年次	履修学期	通年	授業形態	実習
教育時間数	193時間	単位時間	(電子制御装置・板金・塗装・自動車検査)19単位		
担当教員	伊 澤 猛 船 木 康 博 萬 智 樹				
実務経験	全員が自動車関連会社にて勤務し、メカニックの経験がある。				
目的	塗装作業が車体整備全体の製品価値を左右する重要性について説明する。塗料の塗膜形成、乾燥形態、塗装設備について説明し、危険物、有機溶剤中毒、特定化学物質による健康障害の予防に関する知識を身につける。				
到達目標	塗装作業の定義、塗装材料、塗料の乾燥機構、塗装設備、機器、補習塗装、安全と衛生について説明し、理解できる。				
目標資格	自動車車体整備士				
授業計画	授業内容				時間数
	塗装の基礎作業				20
	塗装作業				90
	板金・塗装				18
	自動車検査作業				10
	損傷診断				8
	実車による板金塗装作業				25
	前期期末試験				16
	後期期末試験				6
					193
使用教科書	自動車整備技術 車体整備				
成績評価の方法	前期期末試験・後期期末試験 A:100~80 B:79~60 C:59~50 (合格) D:49以下 (不合格)				

学科名	ボディークラフト科				
科目名	損傷診断				
履修年次	1年次	履修学期	後期	授業形態	実習
教育時間数	47時間	単位時間	1単位		
担当教員	伊 澤 猛 船 木 康 博 萬 智 樹				
実務経験	全員が自動車関連会社にて勤務し、メカニックの経験がある。				
目的	車体の損傷は、その発生原因の相違によって様々な状態を示すものであるから、損傷の程度や、損傷範囲を正確に判断・把握することは、精度の高い車体整備を実施していくうえできわめて重要であり不可欠な作業である。損傷診断を的確に行うためには衝突事象についての力学的な理解が必要であり、しっかりとした「基本知識」と「基本動作」を学ことを目指します。				
到達目標	損傷診断の基本要件、損傷診断に必要な基礎知識、車体の損傷診断、トラックの損傷診断を説明し理解できる。				
目標資格	自動車車体整備士				
授業計画	授業内容				時間数
	自動車の損傷診断				41
	後期期末試験				6
					47
使用教科書	自動車整備技術 車体整備				
成績評価の方法	後期期末試験 A : 100~80 B:79~60 C:59~50 (合格) D:49以下 (不合格)				

学科名	ボディークラフト科				
科目名	自動車検査				
履修年次	1年次	履修学期	後期	授業形態	実習
教育時間数	20時間	単位時間	(電子制御装置・板金・塗装・自動車検査)19単位		
担当教員	伊 澤 猛 船 木 康 博 萬 智 樹				
実務経験	全員が自動車関連会社にて勤務し、メカニックの経験がある。				
目的	車体の構造、使用素材、ぎ装品などの多様化や、これに伴う生産性の進歩によって、複雑多様の整備方法が要求されるようになってきている。そのために検査による安全性の確保を身につける。				
到達目標	検査の意義を理解させ、その目的や必要性によりいろいろな検査のあることを理解させる。また、検査用機器の構造、原理、取り扱い要領なども理解できる。				
目標資格	自動車車体整備士				
授業計画	授業内容				時間数
	自動車検査作業				14
	後期期末試験				6
					20
使用教科書	自動車整備技術 車体整備・法令教材				
成績評価の方法	後期期末試験 A : 100~80 B:79~60 C:59~50 (合格) D:49以下 (不合格)				